#### 二〇二五年度

## 共愛学園前橋国際大学

### スカラシップ試験

国語 試験

(--:00 - -:00)

#### 〔注 意 事 項〕

- 以外のものは試験時間中に使用することはできません。消しゴム、時計(時計機能のみのもの)のみです。これ一、試験時間中に机の上に置ける物は、受験票、筆記用具、
- てください。二、試験終了時には、解答用紙のみ提出し、その他は持ち帰っ
- さい。 三、解答用紙には、受験番号・氏名を忘れずに記入してくだ
- 験したすべての科目も無効とします。取り消します。それ以後の受験はできません。すでに受四、不正行為があったときは、直ちに退室を命じ受験資格を
- 手をあげて試験監督者から指示を受けてください。五、試験中、質問がある場合や、気分が悪くなった場合には、
- 六、試験監督者の指示があるまで、退席しないでください。

# 第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

現象学の原理は 「現象学的還元」 と呼ばれる。 とりあえず、 定義を先に書いておこう。

現象学的還元:一切の対象を〈私〉の意識体験における確信とみなすこと。

と言ってよい。 れ自体が何であるかについては、 は インスピレーションを与えるのは、ピュロン主義の「エポケー」である。すなわち、 れまでの議論の成果を思い出しながら、 - デカルトが 「方法的懐疑」 判断を保留しなければならない、 で示したように 現象学的還元の核心を押さえよう。まず、主客一致の認識問題を原理的に解明するために -私たちが生活の中で自然に身につけている物の見方を変更しなければならない。 というものである。 対象にはさまざまな現われ方があるので、 デカルトもまた、 この方向で懐疑を展開した 対象そ

そのものを変更しよう、ということである。 (私) しかし、 が自然な形で持っている客観的世界への親和的態度) フッサールはエポケーの範囲をさらに一般化して広げて、 ピュロン主義やデカルトになくて、 の全体を問題にする。 特定の対象だけではなく、 つまり、 フッサールにあるのが、 世界が存在していると当たり前に信じている態度 世界確信とそれを定立する自然的 この根本的な態度変更 の、 !態度

なのだ。

中に 明の信念だと言える。 これはあまりに当然のことなので、 人間であれば誰しも、 私、 事 物 動物、 私 他者などが含まれている。こうした世界確信は、 の外側に世界が客観的に存在していて、 改めて言われると、 かえって理解するのが難しいかもしれない。 そこで よほどの特殊な事情がない限り、 私 は生きている、 客観的世界が存在していて、 という自然な確信を持ってい 私たちが広く共有する自 その

ところが、このような見方が自然であるからこそ、私たちはそこから抜けだすという発想をほとんど持たない。そして、このことが

認識論 いう根源的な確信生成 のアポリア (注 (=「世界の一般定立」)をシャダンすれば、そこにまったく異なる世界への態度が現われる、 解決できない難問)に深くかかわっているのだ。フッサールは、 世界が客観的もしくは実在的に存在していると と主張する。 そうして、

認識

問

.題は原理的に解明される、というのである。

象学的エポケー」は、 を括弧に入れておいて、それがどのような条件と構造で意識体験 論から言おう。それはすべてを〈私〉の確信とみなす態度である。 世界への向き合い方を抜本的に変更するための方法となるのだ。 (内在) において確信されているのかを問うのである。それゆえ、 いかに客観的世界を主観が認識しうるかではなく、 客観的 ]世界 現

う意識作用そのものに ことだけが問題になるだろう。 すると、どうなるか。 客観認識の可能性の有無ではなくて、どういう条件を持つ対象が客観的なものとして確信されるのか、 -適用するのである。 だから、 フッサールは、 フッサールは、 ピュロン主義のエポケーを世界全体に 次のように書いている。 -別の観点で言えば、 客観妥当を行な という

4 かなる定立に関しても、 われわれは、 しかも全き自由をもって、このような独自のエポケーを行なうことができるのである。

そのエポケーとは C そうした確信とも調和するようなものなのである。

(エトムント・フッサール『イデーンI―I』、

に、 日本、 くことが肝要だ、とフッサールは考えるのだ。これは奇妙な提案に思えるかもしれない。 11 これらは客観的もしくは実在的に存在しているのか。 かなる定立 正義、 虹 (何かが存在すると信じること) であっても、 ペガサス、そして、すべての対象を含む世界とその地平全体……。これらの対象の本性は無条件的に何なのか、 その気になれば、私たちは自由にその判断を保留することができる。 私たちはこれらを問わないでおくことができる。 しかし注意すべきは、 いやむしろ、 エポケーは認識問題を 問 わない でお

解決するために導入されている、という点である。つまり、

方法的概念なのだ。

対立の関係を、 どんな意味があるのだろうか。認識論を考える際に外せないキーワードは 世界とそこに含まれる全対象が 改めてはっきりさせておこう 私 の認識から独立して存在する、 「信念対立」である。 という世界確信をいったん脇に置いておくことに、 重要なところなので、 エポケーと信念

対の見方である、 を把握している、 そもそも絶対的な正解を置かなければ、 深刻な信念対立というものは、 という前提から出来する。 私 の言っていることに同意しないのはおかしい……。こういう主張は、 それぞれの信念を自明視するところから生じる。 ここで複数の絶対信念が存立すると、 何が正解かをめぐる信念対立は不毛となる。 それらが互いに対立するようになるのである。 この理論が絶対に正しい、 Е 世界の真の姿があって、 エポケーは独断主義の抗争を抑止 これだけが 私 だけがそれ 唯 絶 か

する、

と言えるのだ

11

主張するわけである。タンテキに言えば、 主観というイメージである。リンゴそれ自体は存在しているが、 反対に、すべては人それぞれである、という相対主義も、 物自体と 私 の認識能力の限界が相対主義に帰着するのだ 客観存在を想定していることがある。 私 はそれを認識できない、 という前提に立ち、 典型的なのは、 客観とそこに届 認識の相 対 性 かい ない

主義の両方をケンセイすることで、 ここで物自体についての きない。 かし、 というのも、 すべてが相対的だとすれば、 信念の相対性が認められているからこそ、 判断を保留すれば、この図式そのものが無効になることが分かるだろう。 信念対立の芽をあらかじめ摘み取ろうとしているのである。 これは力による抗争を避けることが難しくなる。 暴力を肯定する信念にも一つの権利が与えられてしまうからである 相対主義もまた信念対立を回避することはで つまり、 エポケーは独断主義と相対

のだから。 サールの立場はアイマイである。エー では 結局、 だが、このどっちつかずの態度こそが、フッサール現象学の創見にほかならない 真理は存在するのか。 先のパッセージで言われているように、 そして、真理を認識することは可能なのか。ふつう、そう問いたくなるはずだ。 真理を強く信じていたとしても、 その判断は保留されている 見すると、 ・フッ

その判断は独断的に響くし、 明しよう。 真理は存在するの 反対に後者を選べば、 か。 このように問いを立てるなら、 相対的に響く。だから、この問いの立て方そのものがナンセンスである、と、 答えはYe S かNoの二択になってしまう。 ここで前者を選べば フッ

サールは考えるのだ。 している真理の内実、 そして、 信念対立を解消するために重要なのは、 その確信を構成している条件の共通性だからである その対立に決着をつける真理の有無ではなく、 それぞれの 私 が確信

同型性があるか、 おける真理の構成を問題にするわけである。 れて消えてしまうわけではなく、それは で真理を確信しているのか、 こうして、 先の問いは変更されることになる。 ということだけをショウテンとするからだ。 という現象学の問い 私 その際、 の へと変更されるのである。 すなわち、 「確信」として捉え返される、 真理が本当に存在するかどうかは、 真理は存在するのか、という素朴な問いは、 現象学において真理は括弧に入れられるが、 ということだ。 問う必要がない。 一言でいえば、 私 私 現象学は、 はどういう条件と構造 と他者の しかし無化さ 意識 意識体験に 体験に

なす。 17 かを他者との言語ゲームで確かめてみる。 つ まり、 つぎに、 こうだ。 その対象確信を成立させている条件と構造を意識体験において分析する。 まず、 対象 (世界) が客観的に存在しているという素朴な これが現象学的思考のプロセスである G を中止して、 最後に、 その条件と構造に共通性があるかな あらゆる対象を 私 確 に信とみ

の意味を解明する現場は、 操作を、 ここで、 「現象学的還元」 あらゆる対象を と呼ぶ。 私 私 の意識体験である、 の意識との相関性において捉えようとすることを、 それは、 切の対象を ということになるだろう。 私 の意識体験における確信とみなすことを意味する。 現象学は、 言い換えれば、 私 の意識体験において確信成立の条件と すべての対象を意識対象とみなす そうすると、 世界

構造を取り出すのだ。

自然な物の見方になっているのである。 私 般定立によって支えられている、 具 体的に考えてみよう。たとえば、机の上にリンゴがあるとする。 にはリンゴが見えている、 ということが分かるだろうか。 という順番で考えるはずだ。 つまり、 この主観と客観を前提する認識図式は、 日常生活においては、 対 象 (世界) があって、 リンゴ (客観) それを私が見ているという、ごく が机の上に存在しているので、 自然的 態度による世界の

ので、 現 象学的還元はこれを逆向きに捉えるのだ。 私 はそこにリンゴが存在するという確信を持つ、という順番で考えてみるのである。 すなわち、 赤くて丸くてつやつやしたリンゴの像が リンゴに向かっていた視線を 私 の 意識体験に与えられている 私 0)

意識体 験  $\tilde{\mathcal{O}}$ 内側に移し、どうしてリンゴが存在していると思っているのかを分析するのだ。 先の自然な物の見方を逆転させるのである。

だとすれば しか 主客 ないからである。 一致の認識問題において、客観それ自体を 主客一致の認識問題は問い 私 が 私 の認識の外に出て、 の立て方がうまくない、 私 が見ている、 () かなる観点からも自由に、 ということになるだろう。 ということは証明されえない。 客観それ自体を参照することは不可能 簡潔にまとめると、 どのような認識も それは答えようの なのだ。 ない

問

(1

0)

形になっているのである。

対 いう問いではなく、 象が客観的に存在していると思う、 認 原理的 可能性を明らかにするためには、 私 の意識体験 その理由を明らかにしなければならないのである。 (=「内在」) において、 まったく別の発想が必要になる。 客観 (= [超越]) がいかに構成されるのか、 認識問題の本質は、 という問いにあるのだ。 主観は客観に 致するの

問題 確信する条件を考察するのだから。この場合、 たがって、 の構図が、 ここにあるのは、 完全にひっくり返っているのである。 超越は内在でいかに構成されているのか、という「超越構成の認識問題」、、、、 客観としての対象は前提されていない。 というのも 意識体験の内側にとどまって、 ある対象をそのような対象として である。 「主客 致 の認識

側にその対象が その条件を記述するのである。 屈だけで終わらせないために、 私 の認識からは独立して―― まず、 事物認識の客観性の本質を取り出してみよう。 「知覚」は対象の客観性を構成する重要な条件だ。 存在することを告げ知らせるからである。 すなわち、 何らかの仕方で見えているものは、 事物が客観的に存在していると確信する、 私

をすり抜けてしまったら、これは何かの映像かホログラムだと思うはずである。 事物が他の事物との 二つの 事物は 「因果連関」にあることも、 同一 0 現実世界で客観的に存在している、 その事物の客観性を証示する。 という確信を ある事物が他の事物に因果的な影響を及ぼす 私 にもたらす。 もし目の 前

だと言えることになる。もちろん、さらに別の契機を取り出すことも可能だ。 知覚は幻覚かもしれないからである。 他者との 「共有可能性」 も こうして、 重要な本質条件である。 事物認識については、 かりに 私 知覚、 に見えていても、 現象学は他の 因果連関 共有可能性が、 私 他者がそれを見えないと言うなら、 による検証と確証に開かれているか その客観性を支える本質条件 その

らである。

現象学的思考のエッセンスはつかめただろう。 ていないだろうか。このことをそれぞれの意識体験で確かめてみるのだ。もしかしたら、まったく別の条件に思い至るかもしれないが、 などの事物である。どうして、石は客観的に存在している、と思えるのだろうか。知覚、因果連関、共有可能性はその大きな理由になっ おそらく、これは実際にやってみた方が ] に落ちる。もし時間があるなら、いま考えてみてほしい。考察の対象は石やパソコン

(『〈私〉を取り戻す哲学』 岩内章太郎

問 1 傍線部A 「現象学の原理は『現象学的還元』と呼ばれる。とりあえず、定義を先に書いておこう」とあるが、 現象学の定義に基

づいて 「鉛筆」を現象学的還元したものとして最も適当なものを、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1

- 1 文字を書く道具として使用している鉛筆は私の意識によって鉛筆と確信された時に鉛筆として存在することになる。
- 2 私が答案作成に使っている文字を書くことのできる細長い棒のようなものは鉛筆と呼ばれるものである。
- 3 黒い芯が木で覆われてできている鉛筆という道具を使って私は答案を作成していると私の意識が確信している。
- 4 木でできた細い棒の中心に黒い芯を入れその芯を削り出すことによって文字や絵を描くことのできる道具である
- (5) 私が答案作成に使っている道具は鉛筆であると私の意識が確信するまで道具が鉛筆であるかどうかの判断は保留する

問 2 傍線部B 「ピュロン主義やデカルトになくて、フッサールにある」のピュロン主義、デカルト、フッサールについて、 これらの

うち二者または二者の関係として最も適当なものを、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 2

1 み出された。 ピュロン主義のエポケーは客観的な対象の存在を確認するための方法であり、その方法はデカルトの方法的懐疑を継承して生

2 デカルトの方法的懐疑をピュロン主義が継承してエポケーを唱え、 それをさらに発展させたフッサールが客観的存在に関わる

認識問題を解明しようとした。

3 とした ピュロン主義のエポケーをふまえてデカルトはものの見方の変更を唱え客観的世界の存在を信じる態度そのものを変更しよう

4 ピュロン主義もデカルトも客観的な世界の存在を認めていたが、 そのことに対してフッサールは疑義を提示し自明視される世

界確信を問題とした。

フッサールは客観的世界の存在を否定し、 そのことをデカルトやピュロン主義のエポケーを世界全体に適用することによって

証明してみせた。

(5)

問 3 文章中の С には次の①~⑤の五つの表現を正しく並べ替えてできる文章が当てはまる。 四番目となるものはどれか。 次の

- ①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は3。
- ① 場合によっては揺るぎえない確信、
- ②この判断中止は、
- ③ 真理についての揺るぎえない、
- ④ というのはそれが明証的確信だからなのだが、
- ⑤ 一種の判断中止なのであるが、

4 傍線部D 「認識論を考える際に外せないキーワードは『信念対立』である」とあるが、ここでの「信念対立」とはどのようなも

のか。最も適当なものを、次の①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。

問

1 世界とそこに含まれる全対象が 私 の認識から独立して存在するという確信と距離を取るもの。

2 それぞれの信念を自明視するところから生じる複数の絶対的信念を受け入れようとするもの

3 信念の独断主義によって生じる抗争であり、 認識の相対性の前提となるもの。

④ 複数の絶対的信念に正解を定めないと自然と生じなくなってしまうもの。

暴力を肯定する信念にも抗争を正当化する権利を与えてしまうもの。

(5)

問 5 文章中の Е に当てはまる最も適当な語を、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 5。

そこで

1

② つまり

③ したがって

(4) さらに

⑤ しかし

⑤ 〈私〉が〈私〉の認識から解放されて客観を見ることはできないから。	④ 客観は〈私〉の認識と一致するため〈私〉の認識が客観それ自体となるから。	③ 〈私〉の認識を参照することができるのは〈私〉の客観だけであるから。	② 〈私〉が見ていることを認識することができるのは〈私〉の認識であるから。	① 〈私〉が見ていることを認識することのできる〈私〉は存在しないから。	ちから一つ選べ。解答番号は 8 。	問8 傍線部H「客観それ自体を〈私〉が見ている、ということは証明されえない」のはなぜか。最も適当なものを、次の①~⑤のう	問7 文章中の[G]に当てはまる漢字二字の語を、文章中から抜き出して記せ。解答番号は [7]。		<ul><li>⑤ 判断保留</li></ul>	<ul><li>④ 暴力抗争</li></ul>	③ 信念の相対性	② 信念対立	<ul><li>① 力による抗争</li></ul>	問6 傍線部F「この図式」で、「この」の指示内容として最も適当なものを、次の①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は $6$ ]。
------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	-------------------	--	---	--	--------------------------	--------------------------	----------	--------	----------------------------	---

問 9

傍線部I「[\_\_]に落ちる」について、[

問 10 生徒Eの発言において最も文章の趣旨から外れている発言を、 傍線部J「どうして、石は客観的に存在している、 と思えるのだろうか」について、生徒たちが意見を交換し合った。 次の①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10 生徒A~

1 生徒A:強く握ってみれば分かります。軟らかかったら石とは思えません。 他の人にも握ってもらいその感触が一致するかを

確かめたいです。

2 生徒B: 自分の認識だけでは客観性は証明できないから他者と言葉を使って共通性を確かめることが客観性の確認となります。

3 生徒C:自分だけが見たのでは知覚はしてもそれを共有したとは言えません。 対象となる石を他の人と一緒に見れば客観的と

なります。

4 生徒D: 「知覚」が客観性を構成する重要な条件です。そこに石があると見えていれば石は客観的に存在する可能性があります。

(5) 生徒E:自分に石が見えているという意識よりも君にも石が見えているという意識を尊重すべきです。 自分に見えていても客

観的に存在しているとは言えません。

波線部アーオについて、 カタカナを漢字で書け。 解答番号は ア 11、イ 12、ウ 13、エ 14、オ 15。

問 11

修復された一条院に戻ったころから、帝は憂いにとりつかれたように沈み込むことが多くなった。 体調もよくないのだろうが、 あま

りにも強大な道長の権威に対して、自らが目指す親政への道が閉ざされたようにお感じになっているのかもしれなかった。

日々成長する二人の幼い皇子の姿も、帝を元気づけることはなかった。

むしろ微妙な立場となった第一皇子の敦康親王のことが気にかかり、 暗い気持ちに傾いていくようだった。

こその帝のごようすが心配で、彰子も沈みがちになっていた。 注1000~

「帝には何かお悩みがあるのでしょうか」

さりげなく問いかけた香子に、彰子は表情を曇らせて応えた。

「帝は荘園整理が進まぬことを心に懸けておられるのでしょう」

香子は長く彰子の侍読を務めてきた。漢文を教えるだけでなく、 この国の歴史についても語ってきた。 朝廷の財政が破綻し、 摂関家

が資産を増やしてきた経緯についても、彰子に伝えてきた。

長い歴史の中で、 それでも道真の弟子たちが受領として地方国に派遣されたことで、改革はしばらくの間は続いていた。 荘園整理という事業にカカンに挑んだのは宇多帝だった。 菅原道真の流罪によってその志は挫折することになった 子息の醍醐帝の治世が

「延喜の治」と称えられるのはそのためだ。

のは、 やむなきことなのかもしれなかった。 道長が独裁者になってからのことだ。その時期は一条帝の在位の期間と重なっている。 「天暦の治」と呼ばれる村上帝の時代が続く。 地方国の荘園が急速に拡大し、 摂関家が莫大な資産を保有するようになった 帝が絶望し、 無力感にとりつかれるのも

「帝は譲位を考えておられるのでは……。そんな気がします」

彰子がつぶやくように言った。

香子は胸を衝かれた。

帝のそばに寄り添っている彰子は、 誰よりも帝の心の内を察しているはずだった。

恐れていた事態が目の前に迫っているのかもしれなかった。

一帝は臥せっておられますが重篤というわけではありませぬ。 なぜいま譲位をなさるのですか\_

香子はさりげないふりをして問いかけたが、 帝の意図はわかっていた。 道長に対する最後の抵抗を試みようとされているのだ。

彰子は答えた。

「譲位と引き替えに、 帝は第一皇子の敦康親王の立太子を要望されるでしょう。 いまの東宮の居貞親王もご病気がちと聞いております。

周さまも先日亡くなられました。 年齢も帝の方がお若いので、 居貞親王の方が先にお亡くなりになれば、 帝は敦康親王の父として、 院 (上皇) による親政すなわち院政を実現したいとお考えなのです. 敦康親王が即位されます。 敦康親王の母はすでに亡く外戚の伊

「宇多帝がご子息の醍醐帝に譲位されたあと、 院として政務を続け、 内覧右大臣の菅原道真による荘園整理を実現した。 この故事を踏

襲されるおつもりなのですね」

「醍醐帝は関白藤原時平に嗾されて、 父を裏切り、 菅原道真を大宰府に左遷しました。 しかし敦康親王ならば、 そのようなことはけっ

してありません」

敦康親王は彰子に養育されている。 実母ではないものの、 敦康親王が即位すれば、 彰子は国母に等しい存在として、 かつての東三条

院詮子のように、注30歳と 帝に強い影響力をもつようになる。それまで今の帝がご壮健なら、 上皇と国母の二人で、 親政を実現することになる

のかもしれない。ただ……。

香子には懸念があった。

「万が一ではございますが、 居貞親王の方が長く生きられれば……。 院政は実現されぬことになりましょう」

彰子は強い口調で言った。

「たとえ帝が先に薨去されたとしても、わたしが帝のご遺志を継ぎ、 自らの力で国政を改革せねばならぬと思うております」

「あなたさまが、お父ぎみと闘うと言われるのですね」

「わたしは父よりも、夫である帝に尽くしたいと思うております」

きっぱりと言い切った彰子の姿を、 Ι でも見るかのように、 目を細めて香子は見つめ続けていた。

道長に命じられたようで、行成が香子のもとに相談に来た。

行成は蔵人頭として長く帝の側近を務めていた時期があったが、 いまは権中納言に昇っていて、もはや帝の連絡係を務めるような下

級文官ではないのだが、それでも帝の信頼が篤く、 いまだに帝と道長の間を小まめに往復していた。

香子の前に進み出たものの、 話をどう切り出すか当惑しているようすの行成に、香子の方から問いかけた。

「帝が譲位されるというお話ですね」

行成は顔を赤くしながら、ほっとしたようすを見せた。

「そのとおりです。わたくしもこのたびばかりは、ほとほと困り果てております」

香子は重々しい口調で応じた。

「まず最初に申し上げておきたいことがございます」

行成は緊張した顔つきになった。

「はあ、何でしょうか」

「帝は第一皇子の敦康親王を皇嗣にとお考えでしょう。 中宮彰子さまも帝のご意向を認めておられます。 ご自分が腹を痛めた皇子では

なく、 先の皇后の皇子を皇嗣にとお考えなのです。もしも敦康親王を皇嗣にできぬということであれば、 帝だけでなく、 中宮さまの思

いを踏みにじることになりましょう」

「ああ、 確かに、 中宮は親王のことを実子のように思いをかけて育てて来られました。わたくしもそのごようすを見るにつけて、 中宮

のお人柄に胸を打たれておりました.

そう言ったものの、C 行成は追い詰められた表情になった。 敦康親王を皇嗣にすることは何としても阻止せよと道長に命じられている

のだろう。

「そのように中宮さまのお人柄をお認めなら、 どうして譲位の阻止を画策されているのですか.

さあ、それは……」

道長さまに命令されたのですね」

「左府どのは台閣の権威であられる。そのお方の命には従わねばなりませぬ\_

帝にとってあなたさまは、

ただ一人のお味方ではありませぬか」

「確かに、帝はわたくしを信頼しておられます」

「あなたさまは長く帝の側近を務めておいでです。

「その帝を裏切ろうというのですか。それほどまでに道長さまが怖いのですか

いや、怖いというわけではないのです」

行成は追い詰められた顔つきで、心情を語り始めた。

「左府どのは胸の内に謀ることのないお方です。ただ摂関家の長者としての責務を果たそうとしておられるだけなのですが、

方があまりにもあからさまで、心の中が透けて見えます。そこがあのお方の恐ろしいところで、明るい笑顔できっぱりと命令されれば

従わないわけにはいかぬのです」

香子は行成の顔を見つめた。

「恐ろしいのはあの天真爛漫なほどの明るさです。 D\_\_\_\_\_ 血 筋からいえば、あなたさまは摂関家の直系のチャクリュウではありませぬか。 どうして道長さまをそれほどまでに恐れるのですか\_\_\_\_\_ 誰もがあのお方の味方になってしまう。偏屈なところのある実資さまはいまも左府

しまったと……。そういうつもりはまったくないのですが、 さまに批判的で、 わたくしなどは実資さまに叱られっぱなしです。 台閣の一員となると、左府どのの迷いのない決断力が頼もしく思えてくる 帝の側近のはずのおまえが、 いまはすっかり左府どのに鞍替えして

「それでも皆さまは、 道長さまを心の内では見くびっておられるのではありませぬか」m\_\_\_\_

何げなくそう言うと、行成はびくっとして、表情を硬ばらせた。

れば政敵ともいえる実資さまに相談し、 「そんなことはありません。 確かに左府どのは漢文も和歌も苦手ですし、 漢籍や和歌については公任さまを尊重し、 故事にも通じておられません。 わたくしの能書の腕前も褒めてくださる。 それでもわからないことがあ あのお方

の巧むことのない素直さに皆が惚れ込んでいるのです」

香子は大きく息をついた。

「皆さま方は道長さまのわがままを許しすぎです。すぐに増長する幼児のようなお方ですから、 甘やかしてはいけない のです。 権 力が

荘園が増えすぎて租税が集まらず、

朝廷の財政は破綻寸前と伺っ

ております。 菅原道真が断行したような財政改革が必要な時ではないでしょうか」 道長さまにばかり集中して、皆が迷惑をしているのではないですか。

「確かに皆がそう思っています。 しかし道長さまにはそのようなお考えはありません。 あのお方は童子のごとく無邪気に富を独り占め

しようとされています」

「それでよいと、あなたはお考えですか.

行成は答えなかった。

香子もしばらくの間、 黙り込んでいた。

皇嗣については香子も考えをもっていた

妹たちと親しく交流していた。とくに七歳年上の頼通とは仲がよく、 敦康親王は素直な人柄だった。彰子が里邸で過ごすことが多かったので、 彰子が養母を務めているので、香子も敦康親王とは親しく接してきた。美しく聡明な皇子に好意を抱いてもいた。 皇子も土御門殿で過ごし、 隣接した鷹司殿にいる彰子の弟や ただ問題があった。

兄のように慕っていた。

その姿を見ていると、第一皇子としての誇りを失い、 頼通の言いなりになっているように見えてしまう。

まだ先のことではあるが、 いずれは頼通が関白か内覧となる。 もしも敦康親王が帝となれば、 子どものころそのままに、 頼通に支配

されてしまうのではないかと懸念された。

そのためには 香子は彰子が女帝のごとく君臨する日が来ることを期待している。 帝は幼い方がよい。 国母の言いなりになる傀儡のごとき存在でなければならぬ。 彰子が国母として帝を支配し、摂関家と対決して国政を改革する。 彰子が国政に乗り出 I せば、 道長が詮子

	に逆らえなかったように、[
	П
F	0

彰子は敦康親王をわが手で育ててきたので、 情が移っている。 だが、 敦康親王を皇嗣にしてはならない のだ・・・・。

長い沈黙のあとで、香子はつぶやくように言った。

わたくしは若いころから土御門殿に仕えておりました。 いまも彰子さまの側近を務めさせていただいております。 彰子さまのご意向

を何よりも尊重せねばならぬ立場でございます。さりながら……」

香子は行成の顔を見据えて語気を強めた。

定めることは、 まが最高権威の座に着いておられ、 「わたくしは天命というものを信じております。 凪いだ海に荒波を立てるようなものでございます。 誰もが従っております。 いずれ摂政関白という制度は滅びることでしょう。されどもいまのところは、 そういう状勢の中で、 何よりも敦康さまご自身が苦悩を負うことになりましょう。 帝が譲位を断行され、 第一 皇子の敦康親王を皇嗣と 道長さ 帝には

譲位を思いとどまっていただかなければなりません」

行成は息を呑むようにして香子の次の言葉を待ち受けていた。

麓 弟の惟仁親王が東宮に立てられ、 おられます。 「これからわたくしがお話しすることを、 0 小さな庵で暮らすようになった親王を、 『伊勢物語』 ] に登場する惟喬親王のことは、 清和帝となられました。 そのまま帝にお伝えいただければと思います。 雪道を踏んで業平が訪ね、 帝もよくご存じのはずです。 『小野の雪』と呼ばれるくだりでは、 悲しみに涙を流す場面が記されています」 惟喬親王は文徳帝の第 帝は歴史にも詳しく、 皇位を継承できずに出家して比叡山 一皇子に生まれながら、 また物語を読み込んで

誰もが知る『伊勢物語』の名場面だ。

行成は真剣な顔つきで香子の話に聴き入っている。

することになります。 第四皇子の清和帝の母の明子は右大臣藤原良房の娘です。 0) 「父の文徳帝からも寵愛されていた惟喬親王が、 権 一威を振りかざして強引に生まれたばかりの第四皇子を東宮に立てたのです。 これが摂関政治の始まりだと言われております。 なぜ第一皇子にもかかわらず皇嗣に立てられなかったかは、 良房はすでに文徳帝の母の順子の兄として強い権威を有しておりました。 この先例からもわかるとおり、 清和帝は八歳で即位し、 有力な外戚をもつ皇子を皇嗣と 良房は摂政として政務を独裁 おわかりだと思います。 そ

香子は続けて第二の論点に進んだ。

することが

世の安泰を招くことにつながりましょう」

ことになります。 遠でした。父と母の愛を得られなかった陽成帝は宮中で暴力ザタを起こして廃帝となりました。これらは歴史の汚点ですが、オート 歳で即位された陽成帝ですが、 臣籍降下して源定省と名乗って菅原道真の私塾で勉学していたお方が宇多帝となり、 の擁立に関わっただけでなく、 さらに陽成帝の廃帝という事件が注目されます。 「もう一つの例をお話しいたしましょう。 わたくしはそこに天命というものを感じます。 摂関家の圧力で譲位させられた父の清和帝からは疎まれ、 在原業平と相思相愛であった姪の高子を養女として清和帝に入内させました。 京の都が開かれてのちの歴史の中には、 恒貞親王の廃太子は、 天命には逆らえませぬ。i 文徳帝を即位させるための良房の横暴です。 淳和帝の皇子であった恒貞親王のじゅんな 師の道真を右大臣に起用して財政改革を実現する 業平のことが忘れられない高子も皇子とは疎 第一皇子を皇嗣にという帝の思いは その高子が産 その良房は清和帝 廃太子という事件 んだのが その結果 己れ

(『光と陰の紫式部』三田誠広)

注1 彰子 一条天皇の中宮 藤原道長の娘

情愛にかまけて天命に逆らう試みと申せましょう」

香子は淀みなく次の話題に移った

注2 香子 紫式部のこと 源氏物語の作者 中宮彰子に仕えていた

注3 詮子 一条天皇の母 藤原道長の姉

問 1 傍線部A「自らが目指す親政」について、「香子」はどういうものだと考えているか、 その説明として最も適当なものを、 次の

- 1) ⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1
- 1 皇位を敦康親王に譲位し、 院として藤原氏の影響を排した政治を自ら執り行うこと。
- 2 帝の位から退き、 新帝の父親として様々な形で息子の政策を支えていくこと。
- 3 東宮の居貞親王を帝に据え、 院として藤原氏の権力を封じるべく荘園整理に邁進していくこと。
- 4 帝という窮屈な位から退き、 自由な立場で民から親しまれる政治を執り行うこと。
- (5) 藤原氏との協力のもと、 民の生活を親身になって考える政治を執り行うこと

問 2 傍線部B 「微妙な立場となった第一皇子の敦康親王のことが気にかかり」 の説明として最も適当なものを、 次①~⑤のうちから

つ選べ。解答番号は

1 母を亡くした敦康親王を彰子が引き取ったわけだが、 彰子が自分の子と継子の皇子を分け隔てなく養育することができるの

我が子が権力闘争の道具として利用されてしまうのではないかと帝が

か、 道長の娘である彰子に敦康親王が引き取られてしまい、 帝が心配しているということ。

2

心配しているということ。

3 一皇子でありながら、 母親を初め後ろ盾となる外戚の伊周も亡くなってしまい、 立太子できなのではないかと帝が心配して

41 るということ。

4 彰子が道長の血をひかない敦康親王を溺愛するため、 かえって道長に疎んじられるのではないかと帝が心配しているというこ

کے

(5)

帝よりも東宮の方が年上という状況のなか、 敦康親王の立太子はできないかもしれないと彰子が心配しているということ。

問 3
Ι
に入る語句として最も適当なものを、
次の①~⑤のうちから一つ選べ
。解答番号は[3]。

① 恐ろしいもの ② 一

4

驚いたもの

(5)

まぶしいもの

- ② 不思議なもの
- もの ③ 珍しいもの

問 4 傍線部C 「行成は追い詰められた表情になった」 の説明として適当なものを、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 4 。

1 行成は、 香子から厳しく問い詰められて、 自分が帝側から道長派に寝返ったことを白状しなければならないと感じている。

2 行成は、 道長の命令に従って香子の所にやってきたが、 香子に帝側につくのか道長側につくのか態度を鮮明にするよう迫られ

て、どう応えてよいか分からなくなっている。

3 り果てている。 行成は、 道長から香子に相談するよう命じられて来たのに、 とても香子の返事を道長に持って帰ることはできそうにないと困

よいかと思い悩んでいる。

4

敦康親王を皇嗣にしたいという帝と中宮の思いを大切にしたいとは思うものの、

(5) 中宮が自分が腹を痛めた皇子ではなく、 どちらの皇子の側につくべきか思い悩んでいる。 先の皇后の皇子を皇嗣にしたいという考えに胸を打たれるものの道長の気持ちも理解

問 5 傍線部D 「天真爛漫なほどの明るさ」とほぼ同義の十文字の表現を本文の中から探し出して記せ。 解答番号は

問 6 傍線部E 「心の内では見くびっておられる」の意味として最も適当なものを、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 6

- 1 大人とは思えない道長の無邪気さに、 心の内ではうんざりしているという意味
- 2 子供のように自分の欲しいものを独占しようとする道長を、 心の内では馬鹿にしているという意味
- 3 内心では、 道長のことをたいした人物ではないとあなどっているという意味

どうしたら

道長の命に逆らうことはできず、

- 4 道長を敬う姿勢を見せているが、 実はわがままな道長を見限っているという意味
- ⑤ 道長の強引さに圧倒され、政策の遂行に尻込みしているという意味

問 7  $\prod$ に入る表現として最も適当なものを、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 7。

- ① 道長は娘の彰子に従うしかないだろう。
- ② 頼通は母の彰子に従うしかないだろう。
- ③ 敦康親王は母の彰子に従うしかないだろう。
- ④ 頼通は姉の彰子に従うしかないだろう。
- ⑤ 敦康親王は兄の頼通に従うしかないだろう。

8 傍線部F 「敦康親王を皇嗣にしてはならないのだ……」について、 なぜそう考えるのか。 その理由として最も適当なものを、 次

の①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は8。

問

- 1 彰子の実の子ではない敦康親王を皇嗣にすることは、 後に藤原 一族に大きな災いをもたらすに違いないと考えているので。
- 2 敦康親王では頼道の専横を抑えることができず、 帝を中心とした理想の政治が行えなくなってしまうのではないかと危惧され
- 3 道長の意向に背いて敦康親王を皇嗣にしてしまうと、 今後彰子が親政を行うときに道長の協力が得られなくなると考えている
- (5) 彰子が政治改革に邁進するためには、 第一皇子の敦康親王よりも東宮である居貞親王を帝位につける方が重要だと考えている

敦康親王よりも幼い彰子の子を帝にした方がよいと考えているので。

ので。

4

後々彰子が国母として国政を改革してゆくためには、

ので。

るので。

問 9 傍線部G 「第一皇子を皇嗣にという帝の思いは」 0) 「帝」とは誰のことか、 次の①~⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は|9|。

(5)

条帝

- ① 淳和帝② 陽成帝③ 宇多帝④ 清和帝
- 正しく捉えていない生徒は誰 次に示すのは、本文を読んだ後の先生と生徒の会話である。 か。 A~Fの記号ですべて記せ。 先生の問いに対して回答した生徒A~生徒Fについて、 ただし、全員が正しく捉えている場合には、「誤りなし」と記入す 人間関係を

問

10

解答番号は 10

- 先生 することができる。その香子が、 この話の中では紫式部が香子って名前で登場してるけど、 日本の歴史について行成に説明していたけど、 実は紫式部の本名は伝わっていないんだ。 人間関係はつかめたかな? だからどうにでも創作
- 生徒A はい、 分かりました。 文徳帝の第一皇子でありながら皇位につけなかった惟喬親王は、 順子の孫ですよね
- 生徒B そうそう、良房は妹の孫を押しのけて妹とは血のつながりのない自分の孫を東宮にたてたんだ。権力者は何でもできるって

いう感じだなあ

- 生徒C 出家することになったんだ。 その良房の孫が惟仁親王だね。 かわいそう。 惟喬親王は文徳帝の第一皇子だけどお母さんが良房の娘ではなかったから弟に先を越され、
- 生徒D それから良房は、 兄弟の娘だった高子を自分の養子にして清和帝に入内させた。
- 生徒E そうすると、清和帝は母の従妹、 まあ形式的には母の姉妹とも言えるけど、その女性を后にしたんだ。
- 生徒F るなんて、 つまり、 なんか皮肉だなあ 宮中で問題を起こして廃帝になった陽成帝は良房の曽孫にあたるんだね。 あの権力者の血を引く陽成帝が廃帝にな

問 11 波線部ア〜オについて、漢字は読みを書け。 カタカナは漢字を書け。 解答番号は ア 11、イ 12、ウ 13、エ 14、オ 15。